

インドフード CBP スクセス・マクムール(ICBP) インドネシアで飲食品の「ハラール認証」義務化スタート。インドミーのブランド価値上昇による海外売上拡大へ インドネシア | 加工食品 | 業績フォロー

BLOOMBERG ICBP:IJ | REUTERS ICBP:JK

- 2025/12期1-9月は、売上高が前年同期比1.4%増、営業利益が同6.2%増。コア純利益は、外国為替換算損益の悪化が響き4%減益だった。
- 手頃な価格で手軽にアレンジできる国民の人気食「インドミー」が業績を牽引。アジア・アフリカへの売上高が1-9月で前年同期比7.0%増加。
- 昨年10月よりインドネシアで飲食品の「ハラール認証」義務化がスタート。インドミーのブランド価値上昇による海外売上拡大が見込まれる。

What is the news?

10/31発表の2025/12期9M（1-9月）は、売上高が前年同期比1.4%増の56.2兆IDR、営業利益が同6.2%増の12.7兆IDR、純利益が同12.6%減の8.1兆IDR。価格が手頃なうえ、手軽にアレンジできる国民の人気食「インドミー」の需要が国内外で引き続き強かったことを受けて増収を確保した。粗利益率が1.8ポイント低下の35.4%へ悪化したものの、売上高販管費率が同0.7ポイント低下の14.2%へ改善したことを受けて営業増益。一方、外国為替換算差損失の増加を受けて純金融費用が拡大したことが響き最終減益。一時的要因の影響を除くコア純利益は4%減の7.6兆IDRだった。

9Mのセグメント別の業績は以下の通り。①インドミーなどの即席麺部門は、外部売上高が前年同期比1.7%増の40.9兆IDR、セグメント営業利益が同2.5%減の10.4兆IDR。②乳製品部門は、外部売上高が同1.5%増の7.1兆IDR、セグメント営業利益が同20.3%減の5524億IDR。③スナックフード部門は、外部売上高が同1.6%増の3.3兆IDR、セグメント営業利益が同48.3%減の1819億IDR。④食品調味料部門は、外部売上高が同8.4%増の2.7兆IDR、セグメント営業利益が同38.2%増の5470億IDR。⑤栄養・特殊食品部門は、売上高が同7.0%減の9530億IDR、セグメント営業利益が同6.3%増の960億IDR。⑥飲料品部門は、売上高が同13.4%減の1.0兆IDR、セグメント営業利益が同23.1%減の1494億IDRだった。

How do we view this?

インドネシアでは、イスラム教の戒律に従う「ハラール認証」制度が大きく変更され、宗教省直下の機関による国家規格となった。2024年10月より飲食品についてハラール認証の義務化がスタートし、他の品目についても2027年10月までに順次義務化が進む予定だ。

国内における追い風に加えて、代表的な即席麺ブランド「インドミー」は、ハラール認証の食品としてインドネシアと同じ宗教のイスラム圏への輸出拡大が加速している。9Mのアジア・アフリカへの売上高が前年同期比7.0%増の15.2兆IDRへ拡大した。ナイジェリアでは、インドミーが国民食と呼ばれるほどに普及し、調理して販売する専門の軽食店も人気化している。価格は1つ5000ナイラ（約490円）、さらに1200ナイラ払うと具材やドリンクを付けられる。同国では決して安いとは言えないものの、屋台料理と比べて衛生面の良さが消費者に訴求しているようだ。

小麦先物の国際相場は、10月末の米中貿易交渉の合意を受けた中国への需要増への期待もあり、11月時点で回復に転じている。インドミーの原材料となる小麦粉のコスト上昇が利益率悪化につながる懸念は残る。

業績推移

※参考レート 1IDR=0.0093円

事業年度	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12F	2026/12F
売上高(十億IDR)	64,797	67,909	72,597	75,999	80,875
当期利益(十億IDR)	4,587	6,990	7,079	9,385	10,402
EPS (IDR)	393.00	599.00	607.00	794.68	883.78
PER (倍)	23.97	16.91	18.30	10.82	9.73
BPS (IDR)	3,131.44	3,494.30	3,877.36	4,447.81	5,179.46
PBR (倍)	3.01	2.90	2.86	1.93	1.66
配当 (IDR)	188.00	200.00	250.00	269.14	348.26
配当利回り (%)	2.00	1.97	2.25	3.13	4.05

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (IDR) **269.14** (予想はBloomberg)
終値 (IDR) **8,600** 2025/11/26

会社概要

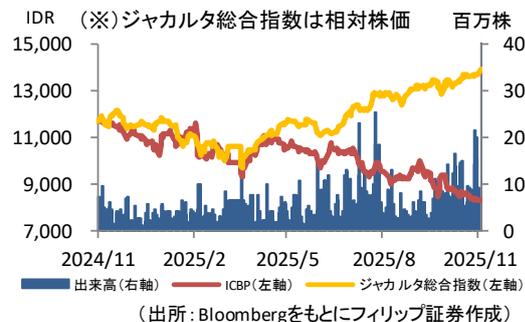
2009年に親会社のインドフード・スクセス・マクムール (INDF) から分離・独立して設立。親会社はインドネシア財閥のサリムグループ企業である。

中核事業拡大戦略の一環として、2020年に、アフリカ、中東、南東ヨーロッパに20を超える製造施設を持つインスタントラーメン生産者であるPinehill Company Limitedを買収し、世界最大級のインスタントラーメン生産者となった。

同社の事業セグメントは、①インドネシアの国民食とも呼ばれるインスタントラーメン「インドミー」のほか「ポップ・ミー」などを扱う即席麺部門、②「インドミルク」などを擁する乳製品部門、③「CHITATO」などを擁するスナックフード部門、④「SAMBAL INDOFOOD」などの食品調味料部門、⑤乳児向けの「PROMINA」を擁する栄養・特殊食品部門、⑥「ICHI OCHA」などのお茶関連ブランドなどの飲料水を取り扱う飲料品部門から構成される。

企業データ (2025/11/26)

ベータ値 0.56
時価総額(十億IDR) 100,292
企業価値=EV(十億IDR) 141,234
3ヵ月平均売買代金(十億IDR) 95.3

**主要株主 (2025/11)**

(%)
1. 第一太平 [ファースト・パシフィック] 80.53
2. FIL LIMITED 1.51
3. ノルウェー銀行 1.27

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
+81 3 3666 6980
kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。